

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年1月13日(2005.1.13)

【公表番号】特表2000-509282(P2000-509282A)

【公表日】平成12年7月25日(2000.7.25)

【出願番号】特願平9-539227

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 7/06

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 48/00

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/00 6 0 7

A 6 1 K 31/00 6 0 7 C

A 6 1 K 31/70 6 2 3

A 6 1 K 48/00

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月21日(2004.4.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年4月21日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第539227号

2. 補正をする者

名 称 トーマス ジェファソン ユニバーシティー

3. 代理人

住 所 東京都港区虎ノ門1丁目17番1号

虎ノ門5森ビル3階

電話番号 03 (3503) 8637

氏 名 (9109) 弁理士 平木 祐輔



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

- (1) 請求の範囲を別紙のように補正する。



芳 式 査 査



(別紙)

請求の範囲

1. 多くとも1個の3'末端および1個の5'末端を有する核酸であって、
該核酸を第1鎖と第2鎖とに分離するように配置された非対合塩基のセグメントを含んでなり、
第1鎖および第2鎖は、それぞれ、第1領域および第2領域を含み、その各領域は少なくとも15個のヌクレオチドを有するものであり、
 - a) 第1領域の各ヌクレオチドは、第2領域のヌクレオチドとワトソン・クリック型塩基対を形成しており、
 - b) 第1領域は、2'-デオキシヌクレオチドとワトソン・クリック型塩基対を形成している少なくとも8個のリボヌクレオチドを含み、該リボヌクレオチドは、少なくとも3個のリボヌクレオチドからなる少なくとも1個のリボヌクレオチドセグメントを形成しており、そして、
 - c) 第1領域または第2領域の配列は、ras 以外のヒト遺伝子の野生型対立遺伝子の断片の配列である、
ことを特徴とする前記核酸。
2. 前記ヒト遺伝子がアルカリホスファターゼをコードする遺伝子以外である、
請求項1記載の核酸。
3. 多くとも1個の3'末端および1個の5'末端を有する核酸であって、
該核酸を第1鎖と第2鎖とに分離するように配置された非対合塩基のセグメントを含んでなり、
第1鎖および第2鎖は、それぞれ、第1領域および第2領域を含み、その各領域は少なくとも15個のヌクレオチドを有するものであり、
 - a) 第1領域の各ヌクレオチドは、第2領域のヌクレオチドとワトソン・クリック型塩基対を形成しており、
 - b) 第1領域は、2'-デオキシヌクレオチドとワトソン・クリック型塩基対を形成している少なくとも8個のリボヌクレオチドを含み、該リボヌクレオチドは、少なくとも3個のリボヌクレオチドからなる少なくとも1個のリ

ボヌクレオチドセグメントを形成しており、そして、

- c) 第1領域または第2領域の配列は、ヒト遺伝子の野生型対立遺伝子の断片の配列であり、

上記リボヌクレオチドの少なくとも1個は、2'-O-メチルリボヌクレオチド以外のものである、

ことを特徴とする前記核酸。

- 4. 細胞中のCRV修復可能突然変異の存在により生じる疾患を有するヒト被験者の細胞の突然変異を修復する方法であって、

- 1) 被験者から細胞を摘出し、
 - 2) 該細胞中に請求項1～3のいずれか1項記載の核酸を導入する、
- ことを含み、

該細胞中のCRV修復可能突然変異が、野生型対立遺伝子により置換されることを特徴とする、前記方法。